

## 韓国 フィリピンのブドウ市場開放で楽観的見通し

[FreshPlaza 2025年12月4日](#)

韓国産ブドウは、長年にわたる輸出検疫交渉の完了を受けて、フィリピン市場へのアクセスを正式に獲得した。韓国農林畜産検疫本部は11月30日、2007年に始まった交渉が11月25日にまとまったと発表した。韓国当局は、懸念される病害虫の管理手法を策定するため、フィリピン当局と継続的に協議を行ってきた。大きな進展は昨年8月に訪れ、フィリピンの検疫担当者らが韓国を訪問してブドウ園と梱包施設の査察を行ったことで、最終的に合意への道が開かれた。

新しいプロトコルの下では、輸出業者は果樹園及び梱包施設の登録、病害虫のモニタリング、植物検疫証明書への特定事項の記載等、複数の検疫要件を遵守しなければならない。同本部は、公式な告示の発出や輸出準備を進める生産者向けの研修プログラムの提供等、今後の対応を迅速に行う計画である。

当局関係者は、台湾、米国等への輸出の増加及びフィリピンにおけるKフード人気の高まりを指摘し、韓国産ブドウの需要に楽観的な見方を示した。ブドウが承認されたことで、フィリピンへの輸出が可能な韓国産農産物は、リンゴ、ナシ、カキ、タマネギ、タンジェリン、パプリカ、イチゴを含め8品目となった。チエ・ジョンロク本部長は、この合意は東南アジアにおける韓国農業の存在感の拡大に向けた重要な節目であると述べた。

出典: cm.asiae.co.kr

## 3大陸でバナナの病害試験が拡大

[FreshPlaza 2025年12月4日](#)

バナナの生産は依然として気候の変動と植物保護上の問題に直面しているが、国連食糧農業機関(FAO)の新たなデータによると、バナナ及びその他の主要熱帯果実は2024年に総額1,220億ドル以上の価値を生み出した。エクアドル、コロンビア及びコスタリカ等の輸出国は、引き続き供給の安定性と市場アクセスに影響を及ぼす天候と病害の課題にさらされている。

生産者の主な懸念はブラックシガトカ病、アザミウマ類、それにモコ病である。ブラックシガトカ病は光合成能力を低下させ、成熟と果実の品質に影響を与える。ミナミキイロアザミウマ(*Thrips palmi*)や *Frankliniella* 属等のアザミウマ類は、果皮を傷付け、果実の等級に影響を及ぼす。モコ病は細菌 *Ralstonia solanacearum* によって引き起こされ、農器具、媒介生物及び種苗を通じて拡散し、回復不能な萎れと株の枯死を招く。

シンテックリサーチグループは、殺菌剤、害虫管理手法及び収穫後処理の評価を目的とした作物保護試験を各地の産地で継続的に実施している。同グループのグローバルビジネス開発及びアジア太平洋地域担当ディレクターであるジャスパー・バーンズ氏は、「バナナ生産者は前例のない課題に直面している。我々の使命は作物、生計及び持続可能な農業の未来を守るため、科学的根拠に基づく解決策を提供することである」と述べた。すべての試験はGLP(適正試験実施規範)の下で実施されている。

中南米では、病害防除効果試験、生物刺激剤の評価、及び輸送ストレスを再現した収穫後シミュレーションを実施するための8.5ヘクタールの試験場をエクアドルに設置している。コロンビア及びコスタリカではブラックシガトカ病の防除と流通過程での果実の品質保持に焦点を絞った別の試験が進められている。

アフリカでは、スペイン領カナリア諸島テネリフェ島のアデヘ町に同社の拠点を置き、バナナゾウムシ、ハダニ、ゴールデンツインスポットモス(蛾の一種)、コナジラミ、コナカイガラムシ、アザミウマ及び線虫等の害虫複合群に関する残留物試験、防除効果試験及び収穫後シミュレーションを行っている。これらの試験は熱帯条件下での総合的害虫管理戦略を支えるものである。

アジアでは、フィリピンにおいて国際的パートナーとの協力により初期段階の化合物開発を支援している。試験対象はブラックシガトカ病、モコ病、パナマ病等である。

同社は引き続き、ドローンの利用、デジタルモニタリング、精密農業システム等の新技術の評価を行うとともに、生物由来製品に関する取組みも拡大している。この世界的試験ネットワークは、地域ごとの農業条件を反映しつつ、バナナ産地全体において規制と製品開発に活用できるデータを生成することを目的としている。

出典: AgriBusiness Global (翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)